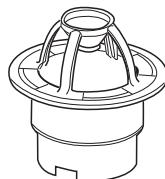


施工

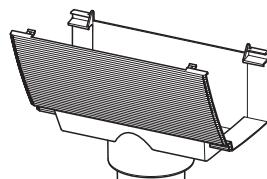
施工手順と施工のポイント サーフェスケア FS-II型

1 落し口(自在ドレンまたはF型集水器)の位置を決定する

一般的には建物の柱向、排水管の位置によって決まりますが
10~20mに1か所が適当です。落し口の数は、設計 [41ページ](#) を参考に算出してください。



自在ドレン



F型集水器

2 軒とい吊具を取り付ける**⚠ 注意**

■積雪・強風地域での「金具間隔・納まり」は、積雪、強風地域仕様を必ず守る
軒といの外れ、落下により、けがをするおそれがあります。

■吊具(ポリカーボネート製)の固定に使用する木ねじ、タッピンねじはナベねじを使用する



ナベねじ



皿ねじ



ラッパねじ

皿ねじ、ラッパねじは吊具の性能が低下し、落下のおそれがあります。



必ず守る

■軒とい金具固定用の使用固定具は所定の本数で必ず固定する

■吊具(ポリカーボネート製)は、穴径より大きなねじの使用は避ける
吊具の固定が不充分な場合、軒といの外れ・落下のおそれがあります。

■吊具(ポリカーボネート製)を使用する場合

- クレオソートの塗布、ネジロック剤の塗布、ペンキ・ラッカーの塗布、ドライヤーによる過熱、接着剤の塗布、有機溶剤[アセトン、キシレン]の塗布・接触、アルカリ[アンモニア、苛性ソーダ、セメント系]の塗布・接触は劣化(クラック発生など)の原因となりますのでご使用はお避けください。

- 施工時および保管時に吊具が塩ビ鋼板や軟質塩ビ(防水シートなど)に接触しないようにしてください。(吊具の劣化防止のため)

吊具の劣化により、軒といが外れ落下により、けがをするおそれがあります。

①吊具の取り付け位置決定

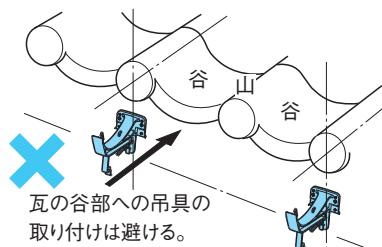
- 軒といを軒先から出す寸法は、屋根材の種類、屋根の厚み、屋根勾配などによって違いがありますが右図を標準にしています。
- (1)軒といの高さは、軒とい前耳部が屋根延長線上の交わる位置まで上げる。
- (2)瓦谷部が深い場合の吊具取り付け位置は、S瓦・和瓦など谷部が深い瓦の場合の吊具取り付けは、瓦の谷部位置での取り付けを避ける。

⚠ 注意

■滑雪による破損および吊具からの伝い水防止のため、吊具は谷部を避けて取り付ける
屋根瓦と雨といの組み合わせによっては、雨といが水を受けきれず、雨水が建物内に流れ込む可能性がありますので施工前後に受水確認をしてください。



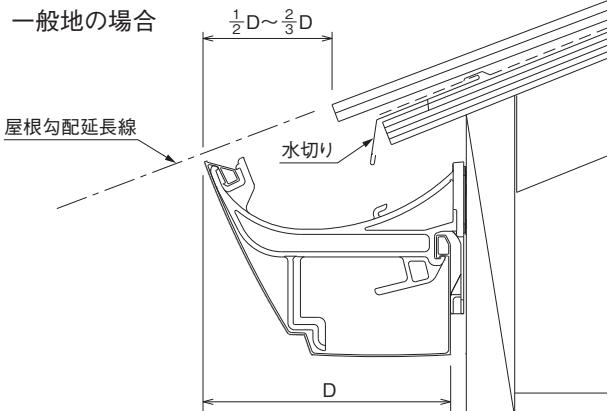
必ず守る



■スライド式の吊具で施工された場合、ナットをしっかりとしめつける
軒といの外れ、落下のおそれがあります。

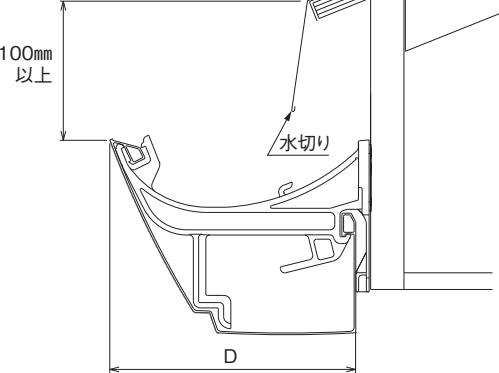
軒先からの出寸法

一般地の場合



雨水が鼻隠し側に回らないよう、水切りの位置を確認する

積雪地、寒冷地の場合

100mm
以上

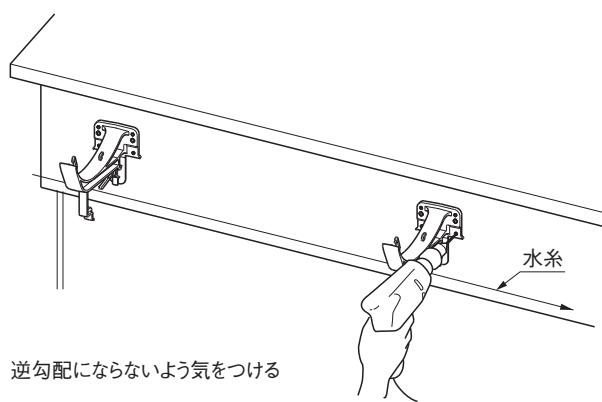
注)Dは軒といの幅を表わす

金属製瓦で流れ長さが長い場合は、雨水の飛び出しが大きくなるため、できるだけ軒といを上に納める
雨水が鼻隠し側に回らないよう、水切りの位置を確認する

②水勾配の設定

- (1)落し口の位置を水下として、水上と水下にそれぞれ吊具を取り付ける。
- (2)水上吊具と水下吊具の取り付け高さの差は軒といの長さと水勾配1/1000(≒勾配なし)または5/1000から換算する。
 - ①軒先の両端へ吊具を取り付ける。
 - ②水糸で水勾配(1/1000)をとる。
 - ③水糸に従い中間の吊具を取り付ける。

たとえば水上と水下の間隔を5mとした場合、水勾配1/1000で高さの差は $5,000 \times 1/1000 = 5\text{mm}$ となります。



施工

施工手順と施工のポイント サーフェスケア FS-II型

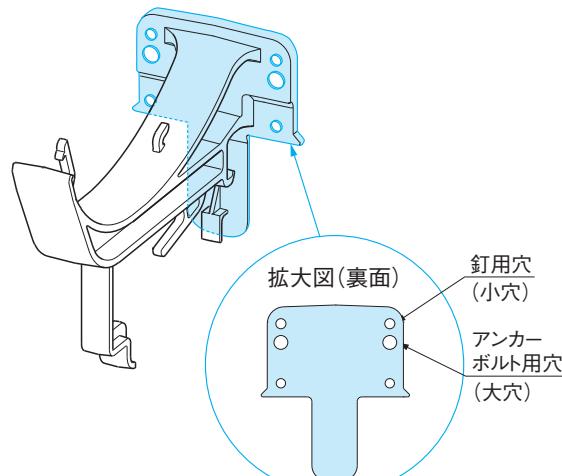
③吊具の固定

- 鼻隠し下地に適した使用固定具および使用穴を選択する。

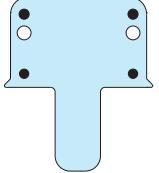
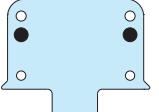
[固定方法]

- (1)釘使用時は釘用穴4か所または3か所で固定する。
アンカーボルトなど使用時はアンカーボルト用穴2か所を使用する。
- (2)釘、ねじなどは下地材(鼻隠し、木質下地材など)に20mm以上打ち込む。
リフォームなどで外装材を重ね貼りする場合も同様に下地材へ20mm以上打ち込む。

〈参考穴配置〉



※サーフェスケア FS-II型

鼻隠し下地	使用固定具	参考(固定釘・ねじ類サイズ)	使用穴	
			吊具(ポリカーボネート製)対象品種	
木	釘・木ねじ	φ2.4×45 以上	 釘用穴 (4か所)	
	木ねじ	φ3.5×32 以上 φ3.8×32 以上		
		φ4.1×32 以上		
鉄	タッピンねじ、リベット	タッピンねじ φ5.0×35 以上	 アンカーボルト用穴 (2か所)	
ALC	ALC用アンカーボルト	M6.0×45 以上		
RC	アンカーボルト	M6.0×45 以上		

● ALCへの直接施工はお避けください。万一施工される場合は、Lアングル(現地調達品)などで補強してください。

● 固定釘類は鉄製を使用しますと赤さびが発生するおそれがありますので、さびにくいステンレス製をおすすめします。

③ 軒といの施工

① 軒といの切断

- 軒といは金ノコ、充電パワーカッターなどで切斷する。

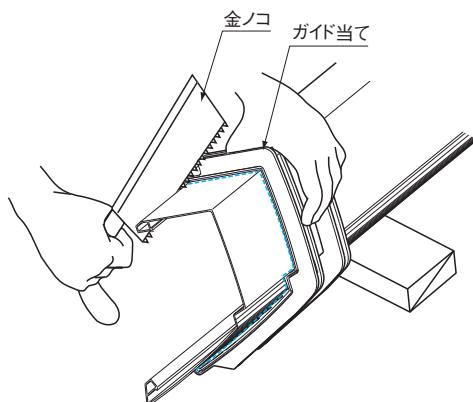
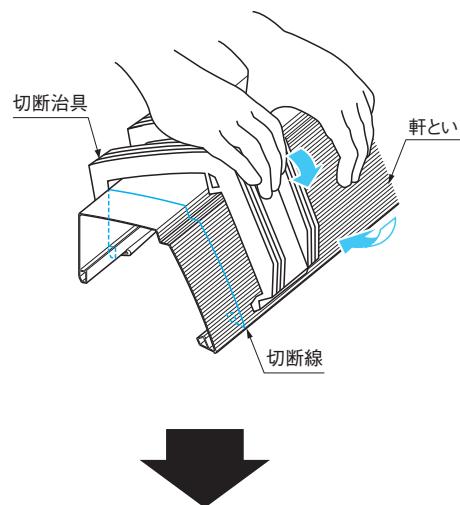
お願い

① 切断面のバリや変形は軒継手や曲りの取り付け時に隙間があく場合がありますのでバリや変形の修正を必ずしてください。
(水漏れ防止のため)

② 切断面は接着剤を塗布し、端面処理をした方が端面のさび発生の防止には効果的です。

③ 充電パワーカッター使用時の安全に関するご注意
● ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
● 安全カバーは絶対にははずさないでください。
● 作業時は保護具を使用してください。切断くずや粉塵が目や鼻に入るおそれがあります。
● 充電器を長時間ご使用にならない時は必ずプラグをコンセントから抜いてください。

専用の切断治具をあて、
切断線を描く(直角切断)



！ 注意



■ バリ取りをする時は必ずブリキバサミ、
ヤスリなどを使う
切断面のバリだけがをするおそれが
あります。

施工

施工手順と施工のポイント サーフェスケア FS-II型

②吊具への軒といの取り付け

- 軒といを金具に取り付ける。

(1)軒といの前耳部を吊具の先端に掛ける。

(2)底部を押し上げ、軒といの後耳部に吊具をはめ込む。

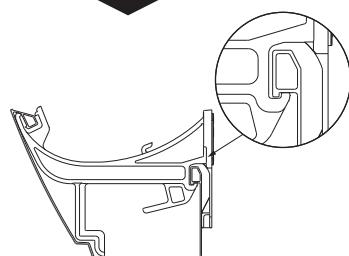
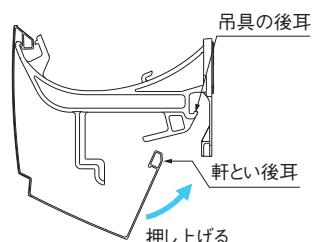
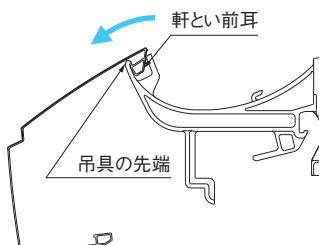
ポイント

- 必ず前耳から取り付けてください。
後耳を入れた後には入りません。

⚠ 注意



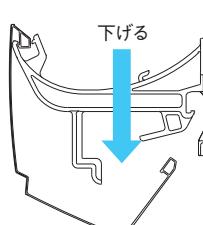
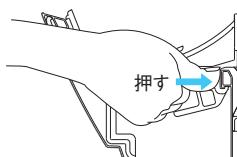
- 前耳・後耳をしっかり吊具に
はめ込む
軒といの外れ、落下により、けがをする
おそれがあります。



③軒といの外し方

- 軒継手、曲りを取り付けていない場合は横にスライドさせ外す。

軒継手などでスライドできない場合は後耳部固定の板バネを上側へおこし後耳を手前に引きながら下へさげて1か所ずつ外してください。



4 軒継手の施工

① 軒継手(内パッキン)

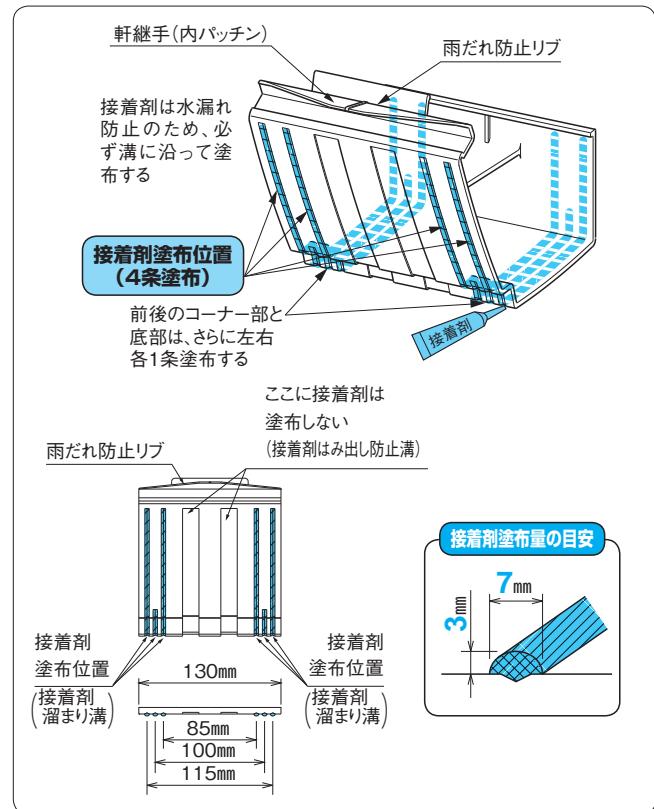
(1) 軒継手の接着剤溜まり溝に沿って接着剤を全周ひも状に

切れ目なく塗布する。

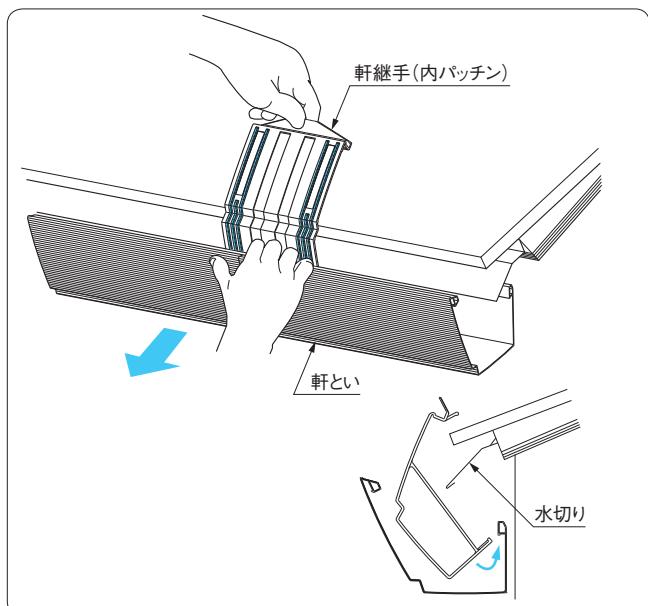
(高粘度接着剤KQ8815)



**■接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより、建物を傷める
おそれがあります。**



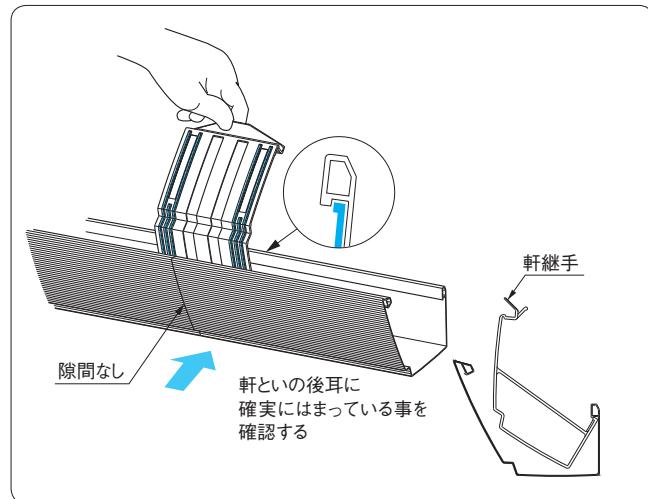
(2) 軒といどうしを隙間なく突き合わせ、軒継手の後方部を水切りの下に挿入する。



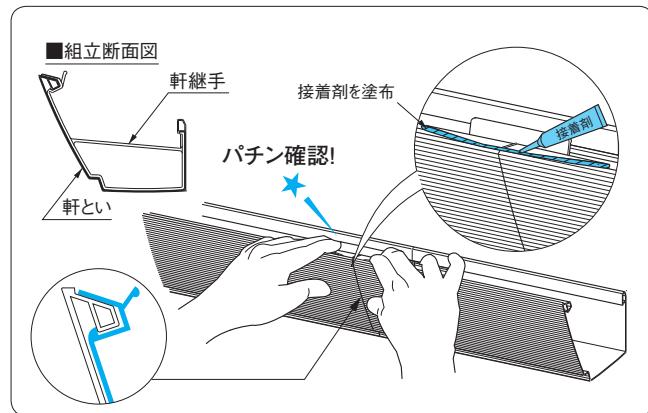
施工

施工手順と施工のポイント サーフェスケア FS-II型

- (3)軒といどうしが隙間のないことを確認し、軒継手の後方部を軒といの後耳部の内側に、はめ込む。

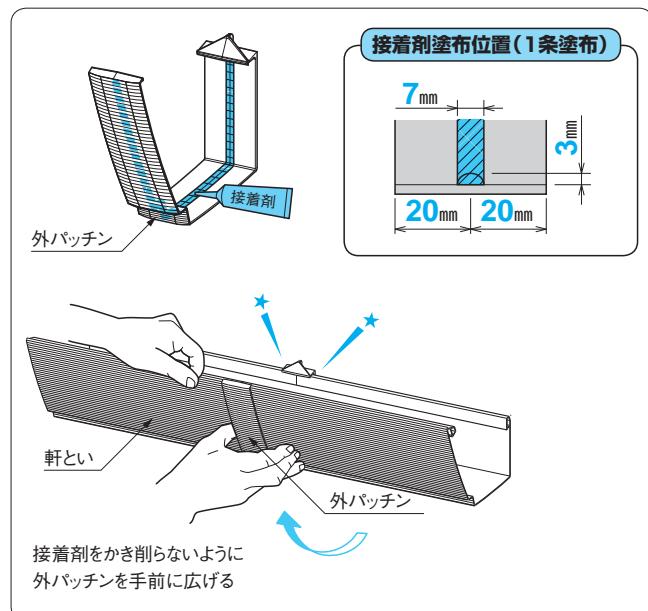


- (4)軒継手を軒といの前耳部内側にはめ込む。また、軒とい継ぎ目部の雨だれを防ぐため、施工後に雨だれ防止リブに、接着剤を塗布する。



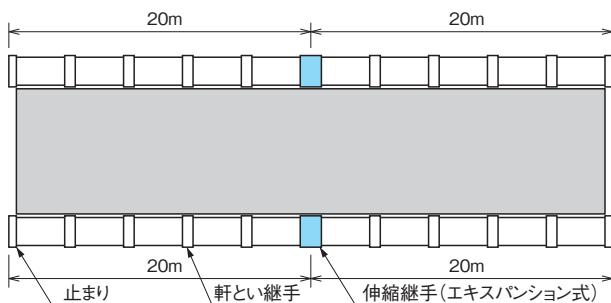
②二重パッキン軒継手の場合

- (1)外パッキンを軒といの後耳にかぶせ、手前に回し、前耳にはめ込む。
接着剤をかき取らないように注意してください。



5 伸縮継手の施工

20m以上の長尺施工の場合、20mごとに伸縮継手を使用する。



- (1)伸縮継手用止まりの接着剤塗布位置に沿って接着剤を全周ひも状に2条切れ目なく塗布する。(高粘度接着剤KQ8815)

⚠ 注意



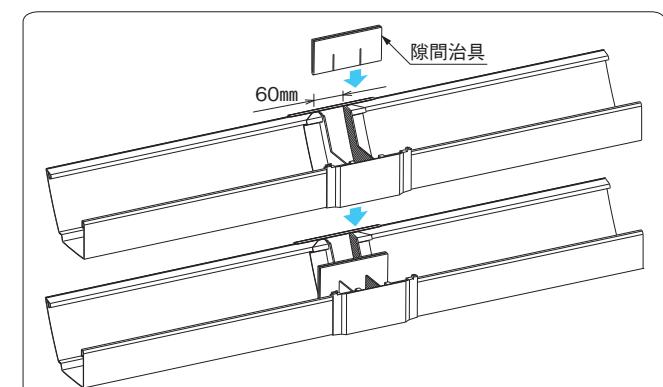
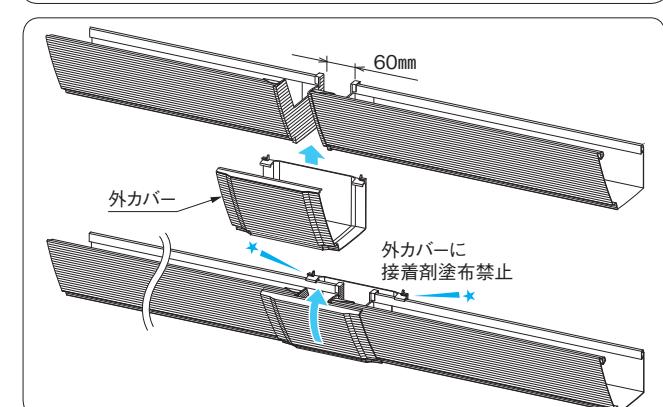
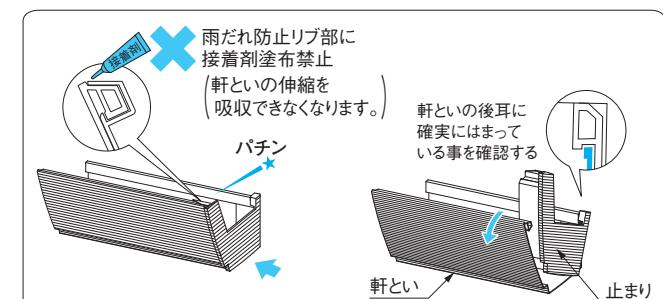
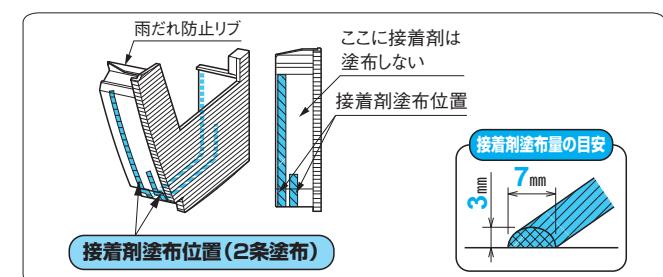
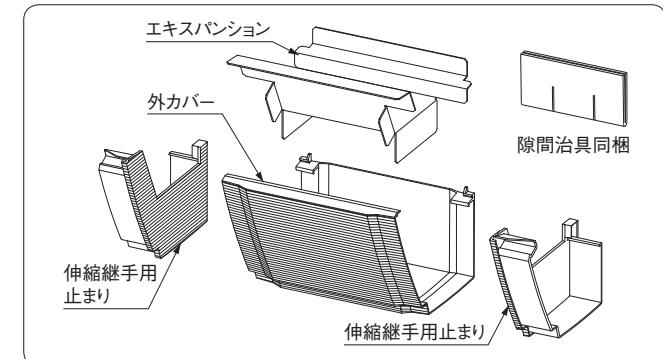
- 接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより、建物を傷めるおそれがあります。

- (2)止まりの端部を軒といの後耳の内側にはめ込む。

- (3)止まりを軒といの前耳部内側にはめ込む。

- (4)左右の止まりの間隔を60mm空け、外カバーを取り付ける。

- (5)隙間治具を取り付けて、仮固定する。



⚠ 注意



- 隙間治具は必ず使用する
60mmのすき間がとれていない場合、伸縮を吸収しきれず、水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

施工

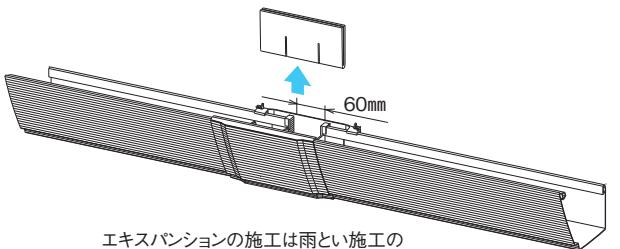
施工手順と施工のポイント サーフェスケア FS-II型

(6)伸縮継手以外の雨とい施工が完了後、隙間治具を取り外す。

⚠ 注意

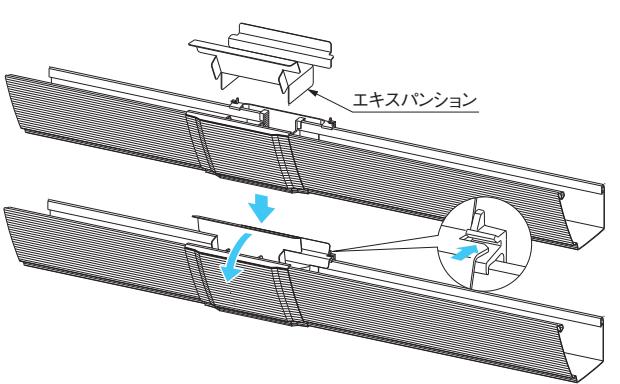


- すき間が60mmあるか確認する
伸縮継手以外の雨とい施工時にすき間寸法が変わった場合、伸縮を吸収しきれず、水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

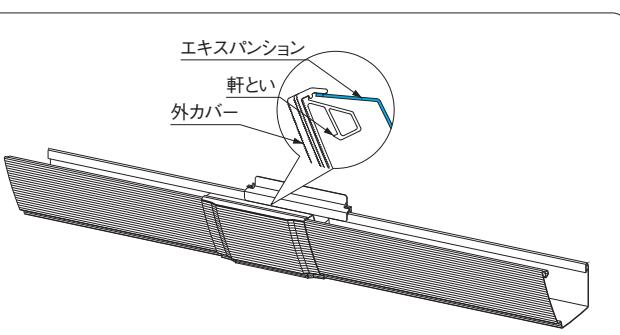


エキスパンションの施工は雨とい施工の最後に隙間治具を外してから行う

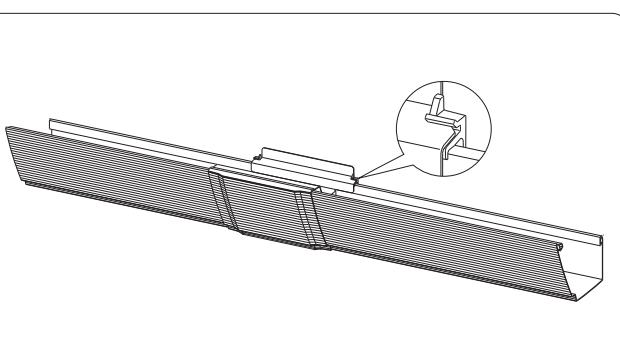
(7)エキスパンションを外カバー後耳上の凹部にはめ込む。



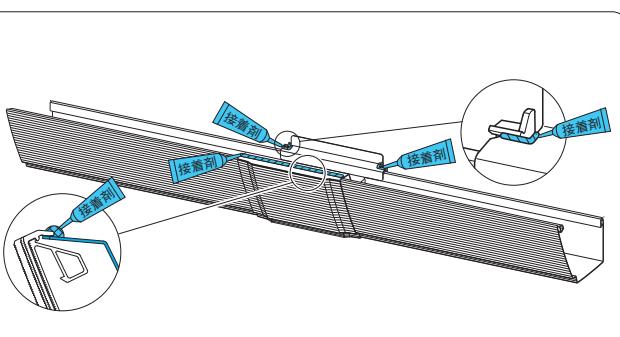
(8)エキスパンションを外カバー前耳側の下にはめ込む。



(9)エキスパンションが外カバーに確実にはまっている事を確認する。



(10)エキスパンションと外カバーの前耳、後耳はめこみ部を接着剤で固定する。

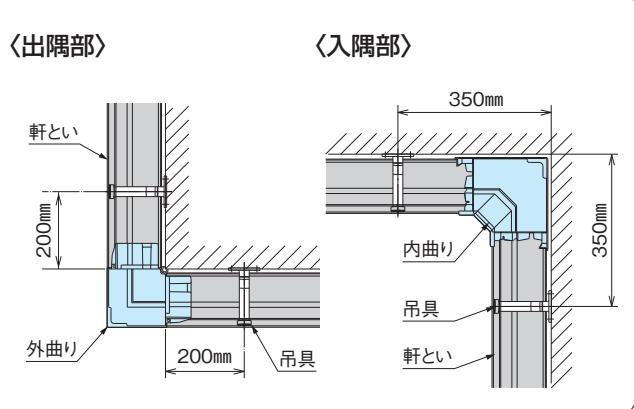


6 外曲り、内曲りの施工

①外曲り、内曲り

寄棟の場合は、曲り部分より施工してください。

(1)吊具を所定の位置に取り付ける。



〈外曲り(内パッチン一体式)の取り付け〉

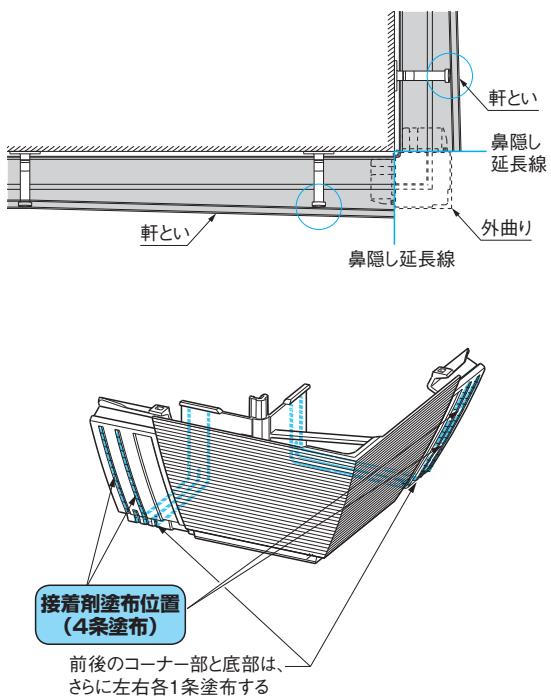
(1)軒といは鼻隠し延長線の位置で採寸する。

(2)軒とい端部を鼻隠し延長線の位置に合わせて取り付ける。

お願い

●外曲り取り付けの前に軒とい前耳を出隅コーナー部から、それぞれ1本目の吊具にはめ込まないでください。
はめ込んでしまった場合は下記の要領で取り外してください。

●軒とい前耳を上に引き上げて、
吊具前耳部から取り外してください。



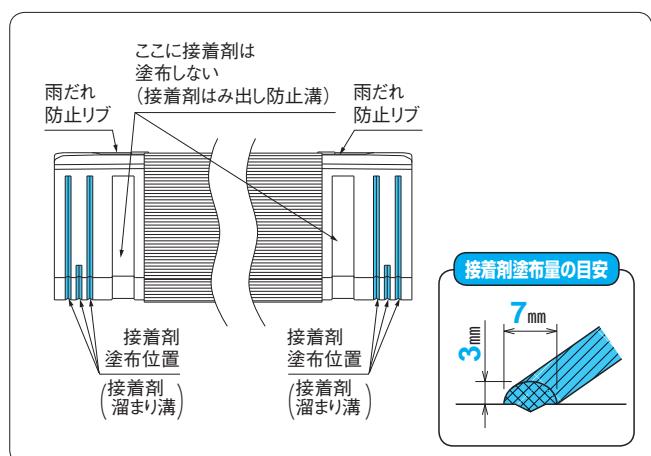
(3)外曲りの内パッチン部(軒継手と同じもの)の接着剤溜まり溝に沿って接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。

(高粘度接着剤KQ8815)

! 注意



■接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより、建物を傷めるおそれがあります。



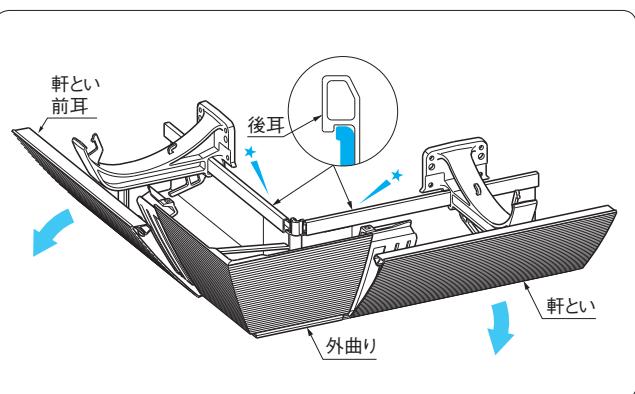
施工

施工手順と施工のポイント サーフェスケア FS-II型

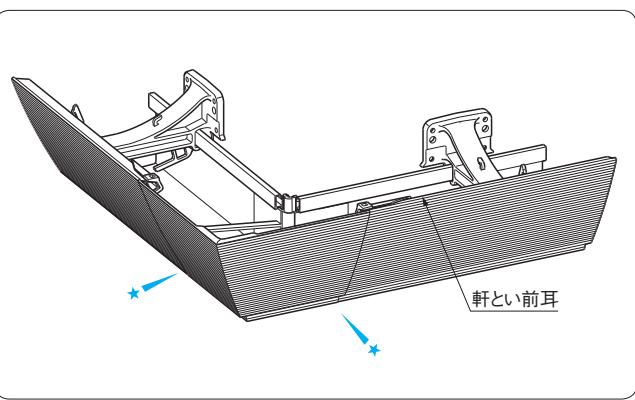
(4)軒とい前耳を広げながら外曲りを軒とい後耳の内側に
はめ込む。

ポイント

- 軒とい前耳を上に引き上げて、吊具前耳部から取り外してください。



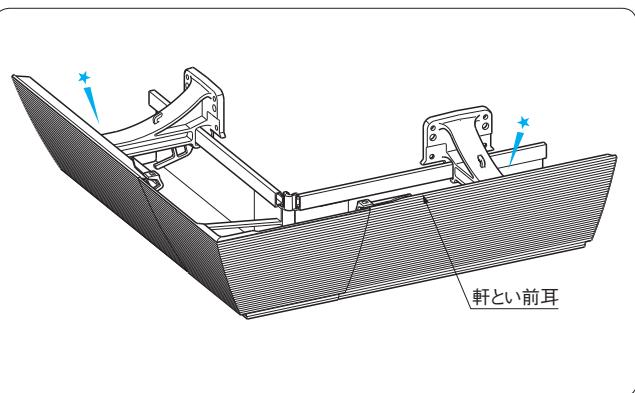
(5)外曲りを軒とい前耳内側にはめ込む。



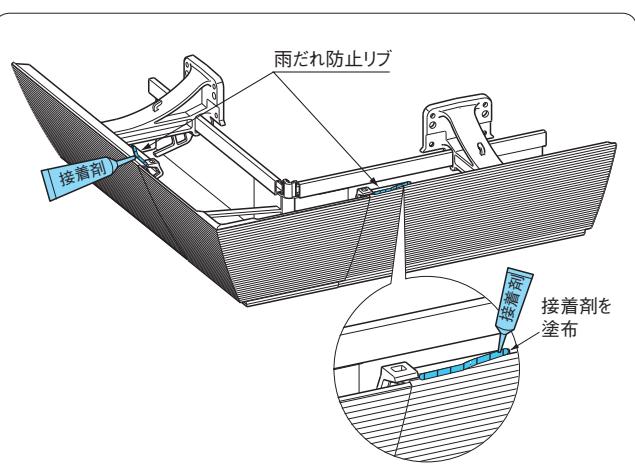
(6)軒とい前耳を外曲り両端の吊具前耳部にはめ込んで、
固定する。

ポイント

- 軒とい前耳を押さえて、広げながら吊具前耳部にはめ込んでください。

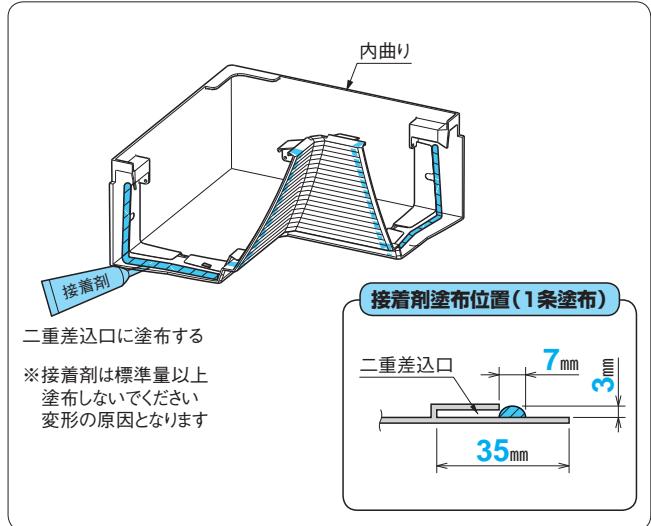
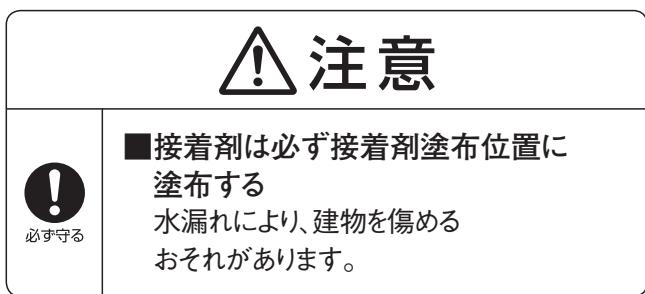


(7)軒とい継ぎ目部の雨だれを防ぐため、施工後、雨だれ防止リブ
と軒とい前耳上部との隙間に接着剤を塗布する。

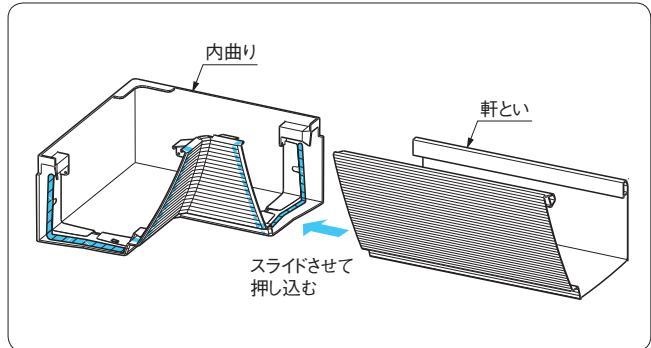


〈内曲り(二重差込式)の取り付け〉

- (1)内曲りの二重差込口に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(高粘度接着剤KQ8815)



- (2)軒といを内曲りの差し込み部の奥まで入るようにスライドさせて押し込む。

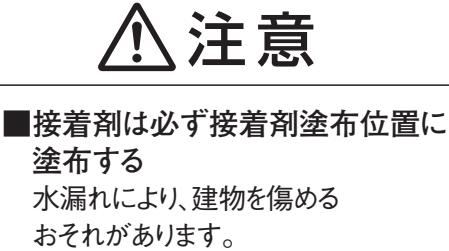


施工

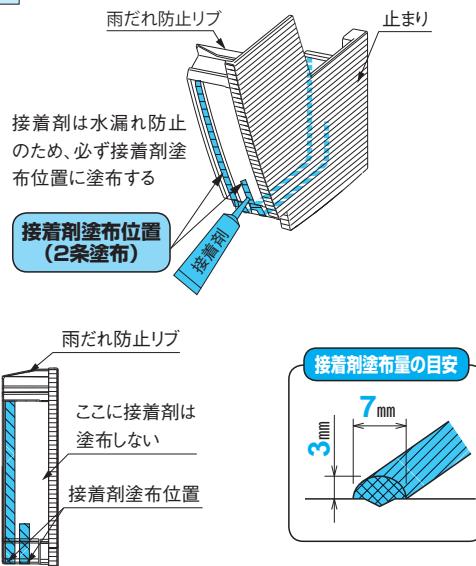
施工手順と施工のポイント サーフェスケア FS-II型

7 止まりの施工

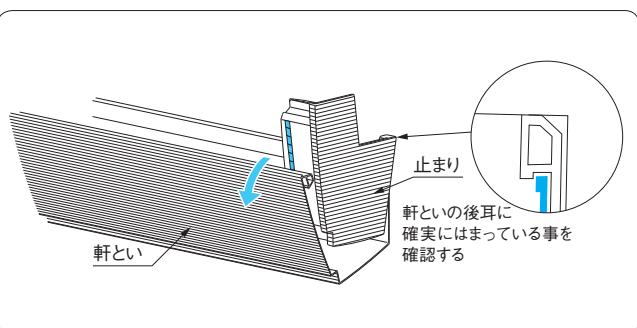
- (1)止まりの接着剤溜まり溝に沿って接着剤を全周ひも状に2条切れ目なく塗布する。
(高粘度接着剤KQ8815)



FS-II型

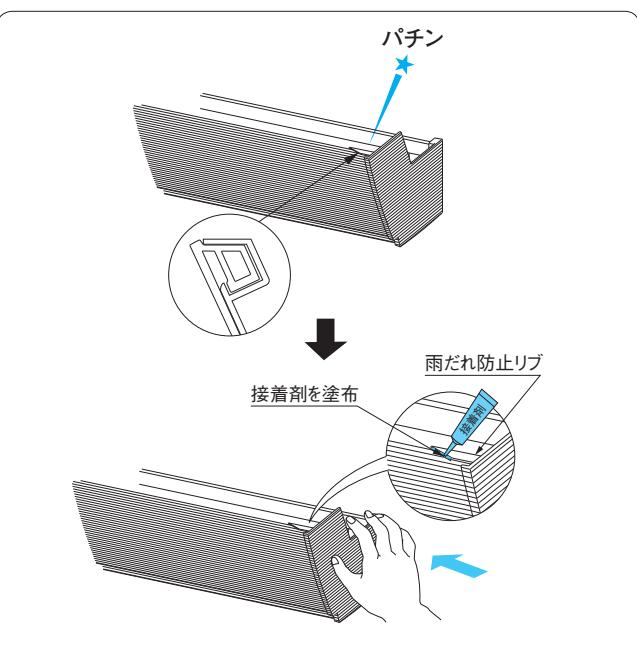


- (2)止まりの端部を軒といの後耳部の内側にはめ込む。



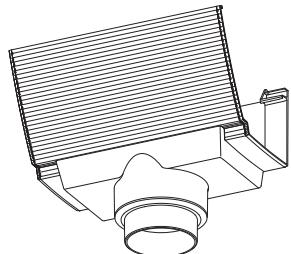
- (3)止まりを軒といの前耳部内側にはめ込む。

- (4)軒といと止まりの間に隙間のある場合は、止まりを軒といに押してはめ込む。また、軒とい端面部の雨だれを防ぐため、施工後に雨だれ防止リブに、接着剤を塗布する。

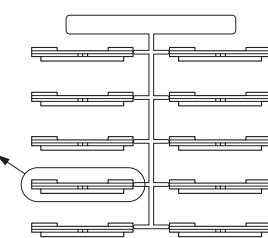
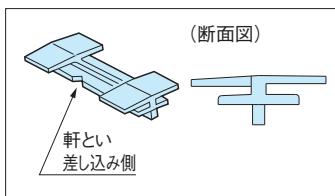


8 落し口の施工

①F型集水器



(スライドストッパー)



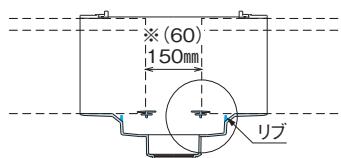
1ケースに2セット(20コ)同梱しています

②F型集水器の施工

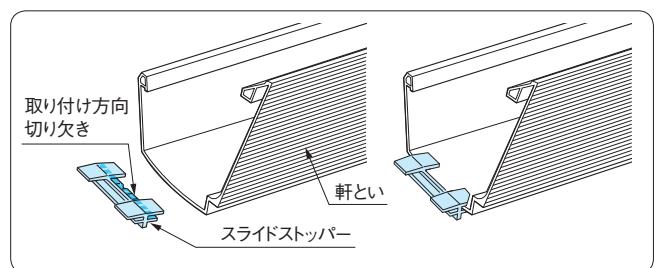
- (1)F型集水器を取り付ける側の両方の軒とい端面にスライドストッパーを取り付ける。
(同梱)

お願い

- スライドストッパーは必ずリブより内側に付けてください。

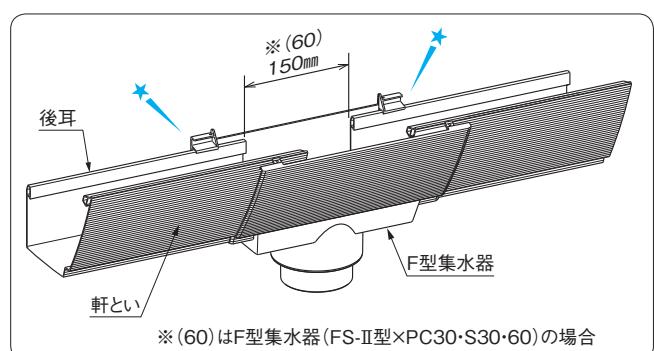


※(60)はF型集水器(FS-II型×PC30・S30・60)の場合



- 接着剤はスライドストッパーの差し込み部に塗布し、スライドストッパーを軒といに差し込んで固定します。

- (2)F型集水器の後耳部を軒とい後耳にかぶせ手前に回す。



※(60)はF型集水器(FS-II型×PC30・S30・60)の場合

- (3)F型集水器を軒とい前耳にかぶせはめ込む。

お願い

- 積雪・強風などの予想される場合は、針金穴(4か所)を利用して補強してください。

